

2024
9月27日号202
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

平和の祭典について 思うこと



副会長 佐藤 勝正

2024年の夏はパリオリンピック・パラリンピックが開催され、世界中のアスリートたちがその能力を最大限に発揮し、多くの日本人選手は数々のメダルを獲得し、私たちに大きな感動と誇りをもたらしてくれました。スポーツの熱気もさることながら近年の地球温暖化によって引き起こされる酷暑や豪雨といった異常気象や気候変動の影響を改めて実感しています。思い返せば2023年秋の放技ニュースの巻頭言の書き出しに、「今年の夏は今まで経験したことのない記録的な猛暑でした」と書かせていただきましたが、「経験したことのない」「記録的な」というフレーズが決まり文句のようによく使われるように感じます。この進行の一途をたどっている温暖化に対して、私たち人類は協力して対策を講じなければならないのですが、協力と真逆の戦争をしている国があるのが残念でなりません。

平和の祭典と言われているオリンピックですが、その所以について少し調べてみました。オリンピックは古代ギリシャに由来し、戦争や紛争の中でも競技を通じて平和を推進するという理念が根底にあります。都市国家間で戦争を中止し、競技に専念するという「オリンピック休戦」が宣言されたことで平和の象徴とされました。現代オリンピックにおいても、その精神が受け継がれています。オリンピックは、政治的な中立を保ち競技を通じて国際的な友好の促進と平和への希望が「平和の祭典」と呼ばれている所以なのではないでしょうか。今回のパリ大会についても、2023年11月ニューヨークで開催された第78回国連総会で「スポーツとオリンピックの理想を通じて平和でよりよい世界を築く」と題した決議が採択されました。これによって前述の慣例に従い、開幕の7日前からパラリンピック閉幕の7日後までの2024年7月19日から9月15日までがオリンピック休戦期間とされ、その遵守が呼びかけられていました。しかし残念ながら、オリンピック期間中もロシア・ウクライナ戦争や、パレスチナ・イスラエル戦争のいずれも休戦がされませんでした。いつの日か本来の“平和の祭典オリンピック”が観られることを切に願います。

さて、この福島放技ニュースが皆様の手元に届く頃には（公）福島県診療放射線技師会の“年に一度のオリンピック”である福島県診療放射線技師学術大会が、星総合病院のメグレズホールで10月20日（日）に開催されます。学術委員会の尽力と各施設の協力で、昨年7題だった発表演題数は24題と多くの演題が集まりました。また、一般公開講演はアナウンストレーナーの引田さいこ氏をお招きし“「伝える」から「伝わる」へ！医療者のための信頼感がある話し方”と題してご講演いただきます。私たちの業務では欠かせない患者様との信頼関係の構築や接遇について考えさせられる有意義な内容になることを期待しています。是非多くの皆様にご参加いただき活発な議論をよろしく願います。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 五月女 康作

会員の皆様、こんにちは。診療放射線科学科の五月女と申します。唐突ではありますが、今回は、『放射線の“正しい理解”を広めるために、今、診療放射線技師(わたしたち)にできること ～たんぼぼプロジェクト～』と題して、私が取り組んでいる活動の一環をこの場をお借りしてご紹介させていただきます。ちなみにたんぼぼプロジェクト(以下、たんぼぼP)とは、福島県における複合災害からの復興を参加者は体験と交流を通じて学び、放射線の正しい理解を日本そして世界へ参加者が発信する活動の総称として名付けたものになります。

福島に赴任するにあたって当時の福島県の状況、特に3.11からの復興状況について色々と調べました。私自身、ここ数年の福島県内の被災地情報を十分にアップデートできていませんでした。特に当時の原子力災害によって引き起こされた放射能汚染による被害状況と避難状況について注力してアップデートしました。その中で、特に目についたのは、毎年環境省が行なっている全国アンケート調査の結果でした。東京電力福島第一原発事故の被災地における次世代以降へ健康影響の可能性を国民に問う質問に対して、ここ数年「可能性は低い」と答える国民が6割弱で停滞し続けています(図1)。すなわち4割の国民は被災地においては次世代以降への健康影響が起きる「可能性が高い」と理解していることになります。この要因は様々あることが考えられますが、1つの解釈としては事故から13年たった今、被災地における復興に関連するニュースは福島県内ではまだ新聞やTVで目にするものの全国的な情報媒体では取り上げられる機会が減り、日本国民の事故の記憶が薄れ、アップデートされないまま事故当時の記憶と印象が現在に引き継がれていると考えられます。事実、私もアップデートされていない1人でした。

たんぼぼPには、診療放射線技師を目指す福島県外の大学生を対象とする学生版と、福島県外の現役技師を対象とする専門職版があります。放射線の基礎知識を有している2つの対象に対して福島県における複合災害からの復興を体験と交流を通じて学び、基礎知識を有している学生ならではの言葉と表現で、そして日頃から患者さんに被ばくの説明をしている技師だからできる言葉と表現で放射線の正しい理解を日本中へ参加者が発信する、これがたんぼぼPの本幹です。たんぼぼの綿毛が各地に飛んでそこで根付きまた花を咲かせてさらに綿毛がそこから飛ぶ、そんなイメージでこのプロジェクト名を付けました(図2)。

3回のたんぼぼPには延べ51名の都内の大学生および大学院生が参加してくれました。北海道大学(小笠原克彦先生)、茨城県立医療大学(門間正彦先生)、国際医療福祉大学成田校(上田克彦先生)、東京都立大学(根岸徹先生)、順天堂大学(佐藤英介先生)、駒澤大学(新井知大先生)、広島国際大学(山本めぐみ先生)、九州大学(納富昭弘先生)はじめ多くの教員スタッフ及び学生スタッフのご協力のもと実現することができました。2泊3日で行われたたんぼぼPでは、伝承館をはじめとした浜通りの様々な災害関連施設で学び、フィールドワークで現地を散策し、現地の方々と触れ合い、経験豊富な先生方から座学とグループワークで学び(坪倉正治先生、田巻倫明先生、佐藤久志先生、広藤喜章先生、大葉隆先生等)、そしてぶどう畑でボランティアで畑仕事を手伝うなど、短い期間に濃縮されたプログラムを受講しました(図3、4)。初めて知る福島の“いま”に学生たちの反応は様々でした。ある学生は自分の無関心さを恥じ、ある学生は避難解除されていない地区があることに驚き、またある学生は診療放射線技師として将来の職場でこの経験を活かす方法を模索しました。参加直後の学生たちの声をいくつかご紹介します。

学生A「震災は10年以上前の事で、東京に住んでる自分にとってはすっかり過去の出来事になってしまっていました。元通りの状況に戻っているだろうと何も深く考えずに思っていました、今もなお人は戻っていません。立ち入らない地域が多くある事に驚きました。」

学生B「正直今までは無知、無関心だった。13年も経っているのだから、住民は戻りきらないまでも、ライフラインもある程度復活した地域だろうと勝手に思っていた。想像より津波・原発の影響を受けたままで、無知無関心だった自分が恥ずかしく感じた。」

学生C「プログラムに参加する前は放射線について他の人に伝えようとはほとんど思っていなかった。プログラムに参加したことで、この2日間を通して学んだ知識や経験を、家族や何らかの質問をされた人々に伝えたいと思った。」

それぞれの立場でのそれぞれの正解を自らの判断で見つけてもらうことが主旨です。正解を与えることはしていません。大切なのはその人たちの生活圏内で友人同士の雑談に「福島」が出てくる機会を増やすことだと思います。今後も継続的にたんぽぽPを運営していくために安定したスタッフのマンパワーと予算の確保が鍵になってきます。本プロジェクトでは主催側としてボランティアスタッフをやってくださる診療放射線技師・放射線科医・学生等々の皆さまを募集しております。まずは話だけでも聞いてみたい方は下記までご連絡くださいませ。

最後に、たんぽぽPを実施するにあたって文中に出てきた方々以外にもご尽力いただいた下記の皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

福島県立医科大学：加藤貴弘先生、山品博子先生、田代雅実先生、アミール偉先生、三枝高大先生、小泉三保子様、渡部史織様、学生）大場茜璃さん、相山優香さん、高荒愛結さん、東海林寿紀さん、鈴木陽大さん、佐藤凜太郎さん、嶋山嵩志さん、青山颯走さん

株式会社千代田テクノル：丸山百合子様、新井崇之様、

とみおかwindメニュー：遠藤秀文代表理事

本研究およびプロジェクトは令和4-6年度「放射線の健康影響に係る研究調査事業」の委託事業費で実施しております。

お問い合わせ先：福島県立医科大学五月女研究室 (ksao@fmu.ac.jp)

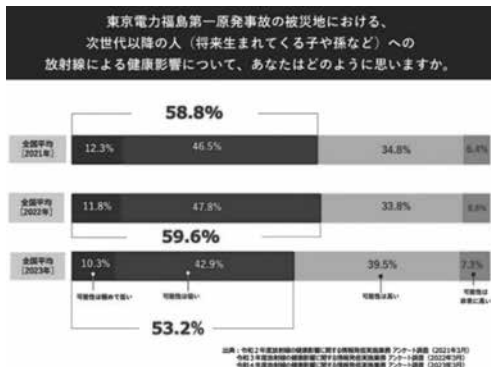


図1 次世代以降への影響の印象調査



図2 たんぽぽプロジェクトイメージ図 (画：本学科4年生 相山優香さん)



図3 とみおかwindメニューに参加者とスタッフで畑仕事



図4 自分たちが感じたことをワークショップで共有

～県会長+JART地域理事「オンレコ」～

1 「臨時執行部会」 7月18日

県定時総会での第1回理事会から第2回理事会(9月)まで間があるので、執行部会のみを開催いたしました。来年度は役員改選の年でもありますので、事前に色々打合せを行いました。私の体調都合で上旬から少し遅らせての開催となりました。

2 「県管理士部会」 7月20日

今回も開催挨拶をさせていただきました。この会はとても良い内容の講演を行っていますが、参加人数が少なく残念です。今回は福島医大保健科学部の学生さんも参加してくれました。私もそう

ですが放射線管理士を持っていないとも参加出来ますので、皆さん奮って参加をお願いします。

3 「山村元会長の告別式」 8月21日

会長として会を代表して弔辞を読ませていただきました。ただ、大先輩なので余り認識がなく短めにはなりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

4 「第2回県原子力防災通信訓練」 8月29日

台風10号の災害対策準備のため中止となりました。

研修会報告

2024年度 福島県放射線管理士セミナー

令和6年7月20日(土)に郡山市のポラリス保健看護学院にて標記セミナーが開催されました。県内外から24名の参加があり、福島県立医科大学保健科学部からは4名の学生も参加されました。

テーマを「災害対策における医療従事者の役割」と題し、能登半島地震に伴うJMAT(日本医師会災害医療チーム)の活動について3施設から報告がありました。診療放射線技師が参加した2施設からは業務調整員として避難所や本部活動についての詳細な報告がありました。また医師として参加した施設からは現場活動の様子とJMATの継続的な派遣が重要との報告がありました。

特別講演は、「自然災害に関連した原子力災害対応」と題し、福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科の大葉隆先生より、原子力災害対策指針の

定義から原子力災害時の屋内退避に関する課題やEAL(緊急時活動レベル)に応じた原子力防災対策・措置の理解を志賀原発

の事例を含めて分かりやすくご説明いただきました。

トピックス1は、「福島県浜通り地域の自然放射線」と題し、弘前大学

大学院保健学研究科の細田正洋教授より、浪江町等と連携し自然放射線計測や資料作成を通して住民への放射線被ばくに対する理解向上に取り組んでいる状況をご報告いただきました。

トピックス2は、「X線撮影条件調査と被ばく線量に関する研究」と題し、福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科の広藤喜章先生より、福島県内施設の小児一般撮影条件の把握事業のご説明がありました。

セミナー後には、参加者同志の交流が活発に行われ、対面型開催のメリットを強く感じたセミナーでした。

(福島県放射線管理士部会
星総合病院
佐久間 守雄)



地 区 だ よ り

会 津 地 区

「第1回会津地区協議会委員会」開催

7月30日（火）に竹田総合病院にて、15名の出席により開催されました。

鈴木雅博委員長より県理事会報告があり、続いて令和6年度事業についての話し合いを行いました。

今年度の「会津若松市健康まつり」は、福島県立医大健康増進センター主催の「いきいき健康づくりフォーラム」との共催となり、11月10日（日）に開催されます。会津支部では、パネル展示等で参加することが決定しました。

例年通り「会津画像研究会」を開催し、「交歓会」を企画することが決定しました。

（風間）

県 北 地 区

県北地区協議会 夏季勉強会 開催

8月24日、大原記念ホールにて県北地区協議会、夏季勉強会が開催されました。

はじめに池田委員長より久々の対面開催となった夏季勉強会の参加御礼の挨拶がありました。会員発表では「STAT画像ガイドラインと救急の現状」をテーマとし柘記念病院の佐藤力様よりガイドラインの解説、次に現状報告として公立藤田総合病院の中島真理子様、福島赤十字病院の島田祥平様、大原総合病院の雉子波翔様、福島県立医科大学附属病院の深谷岳史様より発表がありました。特別講演では「STAT画像診断報告に役立つ所見ポイント」と題して東北大学病院放射線診断科、影山咲子先生より講演していただきました。会員発表では施設毎の状況によりSTAT画像としての対応は工夫されており、徐々に確立されてきていると感じました。

影山先生には読影時の着目点を実際の画像から分かりやすくお話していただき、大変勉強



になる内容でした。66名と多くの方の参加があり、貴重な他施設との交流の場にもなっていました。

（安藤）

県 南 地 区

令和6年度 県南地区サマーセミナー 開催

令和6年8月10日、「令和6年度 県南地区サマーセミナー」が開催されました。

今回から現地開催となり、郡山市ビッグアイの大会議室で行いました。参加者は会員13名、非会員6名。

メーカーの話題提供として、富士フィルムメディカル株式会社とコニカミノルタジャパン株式会社から胸部X線画像のAIを使用した読影支援のシステムの講演がありました。各社の特徴を踏まえた内容であり、今後、採用を検討している施設には参考になったのではないかと思います。

2つ目のセッションは、「線量管理と線量計」と題してPDRファーマ株式会社様から「医療被ばく線量管理システムonti[®]のご紹介」を講演頂きました。通常のX線検査から、核医学の投与量、線量管理までを網羅した線量管理システムであり、特に核医学の投与量管理に関しては必要性を感じるとともに業務の効率化に寄与するものだと思います。

また、「X線アナライザー -Piranha- を使ってみよう ～精度管理委員会より～」においては、以前より貸し出しが減ってきているとのことで、改めて使い方を学び、皆で利用していこうという狙いがありました。

今後も実務に即した話題を提供し、多くの技師が参加するような会を進めていければと思います。

（県南地区協議会
総合南東北病院
鍵谷 勝）



浜 通 り 地 区

「第38回いわき地区画像技術研究会」開催

令和6年7月20日 参加者32名が集まる中

1. 各施設新人紹介
2. 情報提供 キヤノンメディカルシステムズ株式会社
(MRIのシステムについて)
3. 学術講演 (4題)
 - ①膝関節側面撮影のポジショニング
呉羽会呉羽総合病院 佐藤元悠氏
 - ②長尺X線撮影
いわき市医療センター 齋藤舞香氏
 - ③低管電圧CT撮影
養生会かしま病院 江尻航大氏
 - ④MRI上肢のポジショニング
ときわ会常磐病院 大嶋雪希氏

といった内容で開催されました。

今回の学術講演4題は、各施設よりアンケートを取り発表者がまとめて発表されたもので、自分の施設だけ



ではわからない事や他の施設ではどのような撮影方法で撮影しているかを知る良い機会になったと思います。

各施設の新人紹介では、スライド形式や漫才の掛け合いのような紹介があり楽しい新人紹介でした。この機会に繋がりが広がれば良いなと思っております。

参加された皆様ありがとうございました。

(清野)

「令和6年度浜通り地区学術大会・夏季研修会」が開催

令和6年8月31日に、いわき医療センターきょうりつ講堂にて浜通り地区協議会の学術大会と夏季研修会が開催されました。直前まで台風の影響を気にしながらも多くの技師の皆様が集まりました。

学術大会では7つの演題が発表され、質疑応答も活発にされていました。もともと震災後の浜通り地区の学術大会は若い技師の皆様が県、東北、全国の学術大会等で発表するための経験の場として再開した経緯があるので良い学術大会になったと思います。

夏季研修会の特別講演として「これだけは知っておきたい！フォトンカウンティング



CTの基礎」という演題で、シーメンスヘルスケア株式会社の村松駿様に講演をしていただきました。CTの能力は素晴らしいようですが非常に高額であるため購入できる医療機関はかなり限られると思いました。

(大井)



編 集 後 記

今年の夏も大変暑く、この文章を書いている9月中旬でも暑さが収まりません。浜通りはもう涼しくなってもいい時期なのですが、台風が近づけないくらい夏の高気圧が強いようです。雷の発生も多くなり、停電の心配が増えてきました。10月には県の学術大会もあり、人が集まるところに行く機会も多くなると思います。まだCovid-19の感染もありますので、体調管理に気を付けてください。

(大井)